〔伊呂波字類抄加飲食〕粮カテ　饋亦作餽　餼　饟音餉、亦商、　糧　糗　粻已上同

〔段注說文解字七上〕糧穀食也、周禮廩人、凡邦有會同師役之事、則治其糧、與其食、鄭云、行道曰糧、按詩云乃裹餱糧、莊子云、適百里者宿舂糧、適千里者三月聚糧、皆謂行道也、許云、穀食則兼居者、行者言糧、本是統名、故不爲分析也、从米量聲、呂張切、十部亦作粮、

〔倭爾雅六飲食〕糧カテ又作粮、穀食也、

〔東雅十二飲食〕粮カテ、倭名鈔に、考聲切韻を引て、糧又作粮カテといふ、行所賣米也、亦儲食也と注せり、カテの義不詳、

〔倭訓栞前編加六〕かて　糧をいふ、日本紀に稟もよめり、かりての略也、かりてはかれひて也、れひ反りなり、萬葉集にかりてはなしにといふを、一にはかれひはなしにと見えたり、ては沓直酒直などいふての如し、琉球にて食をかてといふも、此邦より傳へたる詞なるべし、

〔玉造小町子壯衰書序〕予行路之次、步道之間、徑邊傍有一女人、〇略中裸形無衣、徒跣無履、聲振不能言、足蹇不能步、糇糧已盡、朝夕之飡難支、糠粃悉畢、旦暮之命不知、

〔藻鹽草十九食物〕飯

かて、〇註略かれ飯のつと、〇註略かれいゐの朝かれいゐともいへり、旅の食也と云々、但不限旅、

〔日本靈異記下〕憶持法華經者舌著曝髑髏中不朽緣第一

糧氏可里乎

〔倭訓栞前編加六〕かりて　萬葉集に見ゆ、糧を靈異記によみ、新六帖にもよめり、かての下考べし、

〔萬葉集五雜歌〕都禰斯良農、道乃長手袁、久禮久禮等、伊可爾可由迦牟、可利氐波奈斯爾、一云可例比波奈之爾

〔萬葉集略解五〕日本紀通證の說に、粮糧和名加天と有、かてはかりての約言也、かりては餉直也、禮比の約利也と有、直をてといふは、あたひの略言なるべしと云、かれひは餉也、乾飯の略言なり、